

全日本ラリー第5戦は今シーズン初のグラベル戦！ 北海道特有の高速グラベルステージを舞台に 無事に強豪たちを相手に戦いきれぬのか！？

概要

2026年7月10日～12日にかけて、北海道ニセコ町を舞台に、シーズン初の本格的なグラベル（未舗装路）ラウンドの『2026 ARKラリー・カムイ』が開催された。SS（スペシャルステージ）総距離は100kmを超え、ターマック（舗装路）とは異なる低グリップ路面での繊細なマシンコントロールに加え、刻々と変化する路面状況への高い対応力が求められる。

本大会には総勢50台がエントリー。

ADSラリーチームからは、GRヤリス（右写真）でJN-3クラス※に参戦。前戦・久万高原ラリーでクラス2位を獲得したDr.貝原・CoDr.西崎ペアが出場した。

チームのエースペアは、この難関の高速グラベルコースを攻略し、上位入賞を目指して挑んだ。



参加選手紹介と意気込み

JN-3：ADS多賀製作所K1カヤバGRヤリスDL（Dr. 貝原 聖也 CoDr.西崎 佳代子）

（貝原 写真左）

グラベルはかなり苦手意識がありますが、昨年の自分よりも成長した走りができるようにベストを尽くします。

次戦に向けて、ドライビング・セットアップ両面での収穫があるようにマイレージをしっかりと稼ぎたいと思います。

（西崎 写真右）

昨年同様非常にアップダウンの多いトリッキーなコースになると予想されるため、いかに正確なノートを作れるかが肝になると思います。一つでも上の順位でフィニッシュできるよう精一杯頑張ります。



※JN-3：2500cc以上で改造範囲の比較的広いクラス。主にGRヤリス、WRX等が参戦。

SS (スペシャルステージ) 紹介

今回のSSは計11本。

1日目は3つのSSを使用し、午前・午後にそれぞれ同じステージを走行するレイアウトで実施された。

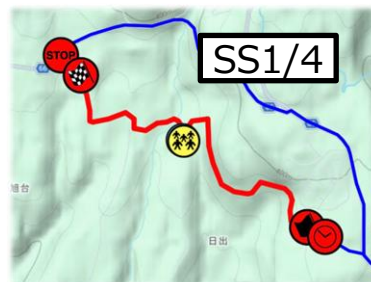
2日目は前日とは異なる2つのSSに加え、最終ステージ「SSS NEW POWER SENMU」でフィニッシュを迎える。

グラベルラリーでは、同じSSでも走行を重ねることで轍（わだち）や浮き砂利が発生し、午前と午後で路面コンディションが大きく変化するため、ハードなラリーとなる。

◇7/11 (土) LEG1 (SS1~6)

SS1/4 NEW SUN RISE 3.63km

競技の幕開けを飾るステージ。比較的ハイスピードなレイアウトで、序盤から積極的なアタックが求められる。リズムよく走りきることが、その後のラリー展開を左右する重要なSS。また、ギャラリーステージとして設定され、多くの観客が集まる。



SS2/5 SPRING WATER 14.84km

高速ストレートとコーナーが連続する、北海道らしい高速グラベルステージ。路面状況の変化が大きく、正確なライン取りとマシンコントロールがタイムアップの鍵となる。



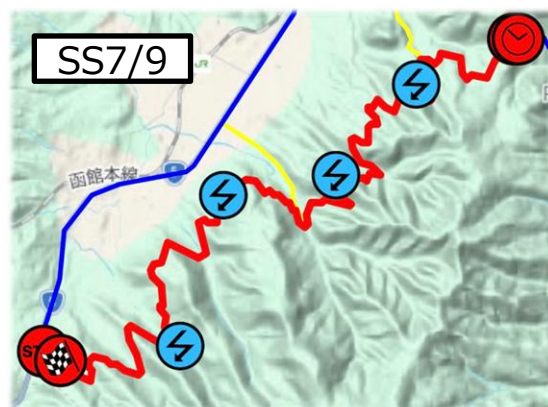
SS3/6 OAK 4.46km

アップダウンやブラインドコーナーが連続するテクニカルステージ。ペースノートを正確に読み取り、ドライバーとコ・ドライバーの連携が試される。

◇7/12 (日) LEG2 (SS7~11)

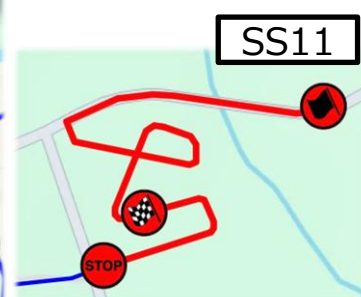
SS7/9 STREAM LONG 23.06km

23kmに及ぶ大会最長のロングステージ。高速区間とテクニカル区間が組み合わさり、タイヤマネジメントやマシンへの負荷、ドライバーの集中力維持が重要となる勝負どころ。



SS8/10 KNOLL 7.55km

中高速コーナーが連続するテクニカルステージ。ロングSSの直後に設定されており、蓄積した疲労やマシンへの負荷が残る中での走行となる。リズムカルなコースレイアウトで、ブレーキングやライン取りの精度がタイムを大きく左右する。



SS11 SSS NEW POWER SENMU 0.45km

大会を締めくくるスーパーSS。観客の目の前で行われるフィナーレステージで、最後まで集中力を切らさない正確な走りが求められる。

7月10日（金） レッキ・車検日

大会前日のレッキ（試走）と車検日は、あいにくの雨となり、一時は最大10mm/hの大雨となった。サービスパークは一面がぬかるみとなり、設営したテント周辺には雨水が流れ込む厳しい環境となった。サービスクルーは、翌日からの競技に支障が出ないよう、シャベルで排水用の水路を掘り、テント下への浸水を防止。作業スペースを確保し、工具や部品を濡らさない環境づくりを行った。



車両製作等でお世話になっているK-Oneさんと設営



立派な水路を掘るサービスクルー

その後、競技車両の最終点検・整備を実施し、車検を受験。
安全装備や車両規則への適合が確認され、問題なく車検を合格した。



車検を受ける準備をするGRヤリス



車検項目の車両重量を測定中

レッキでは、競技で使用する各SSを走行し、コーナー形状や路面状況、路面変化が予想される箇所などを確認しながら、ドライバーとコ・ドライバーがペースノートを作成・修正した。グラベルラリーでは路面コンディションがタイムを大きく左右するため、翌日の競技に向けた重要な準備となった。

7月11日（土） LEG1（SS1～6）

競技初日となるLEG1は、SS1～5の計5本で競われた。（SS6は悪天候によりキャンセル）

前日から降り続いた雨の影響で、コースはマッドコンディションとなり、グラベル特有の低グリップ路面に加え、轍（わだち）やぬかるみが発生する非常に難しいコンディションとなった。

前日からの雨で
地面はドロドロ



多くの観客に見守られながらスタートする貝原/西崎ペア

貝原/西崎組は序盤から安定したペースで走行し、SS3終了時点ではクラス8位/15台で堅実な走りを見せた。

サービスA（SS3～4間）では、フロントサスペンションのスプリングを1段階硬いレートへ交換と各部の増し締めを実施。路面コンディションや車の挙動の変化に対応するためセッティングを変更し、車両コンディションを万全に整え、SS4へ送り出した。



SS2を走行する貝原/西崎ペア



泥を落としながら作業するサービスクルー

しかし、SS4で大きな岩にヒットし、左側前後のタイヤバーストと左リア足回りのアーム損傷という大きなアクシデントに見舞われ、大幅なタイムロスを経験した。応急処置を施して次のSS5に向かう道中にバーストしたタイヤの状態が悪化。車両ダメージの影響から競技続行は困難と判断し、LEG1はデイリタイヤ。サービスクルーは現地へ追加のスペアタイヤを届け、応急処置を実施した後、車両はなんとか自走でサービスパークへ帰還した。

サービスパークでは、翌日のLEG2リスタートに向けて左リア足回りのアーム類を全て交換し、各部のダメージチェックを実施。夜間におよぐ復旧作業を完了させ、再車検に向けた準備を整えてLEG1を終えた。



左リアの足回りを復旧するサービスクルー

7月12日（日） LEG2（SS7～11）

前日のデイリタイヤから車両を復旧し、再車検を経て無事にリスタートを果たした。

LEG2は天候が回復したものの、前日まで降り続いた雨の影響で路面には轍（わだち）とぬかるみが残ри、刻々と変化するグラベルコンディションでの競技となった。

雨は止んでも地面はぬかるんだままのサービスパーク



リスタートし、SS7へ向かう貝原/西崎ペア

貝原/西崎組は、復旧した車両の状態を確認しながら安定したペースで走行した。途中、マフラーの吊り下げ部が破損し、マフラーが脱落するトラブルに見舞われたものの、選手自ら応急処置を行いながら競技を継続。大会最長の23kmのSS「STREAM LONG」を含む全5本のSSを走り切り、見事完走を達成。本大会にエントリーした50台中、16台がリタイアする過酷なラリーとなったが、前日のアクシデントを乗り越え、チーム一丸となって無事フィニッシュを果たした。

SS4での大きなアクシデントにより上位進出は叶わなかったものの、最後まで諦めず競技を継続したことで、多くのデータ収集とグラベルセッティングに関する貴重な知見を得ることができた。サービスクルーの復旧作業と、ドライバー、コ・ドライバーの粘り強い走りが光るラリーとなった。



リザルト/レース後選手コメント

2026 年JAF全日本ラリー選手権 第5戦															2026 ARK ラリー・カムイ										2026/7/10~12									
NO.	DRIVER	CO DRIVER	CLS	LEG1										LEG2										POS		LEG1				LEG2				
				SS1	SS2	SS3	SS4	SS5	SS6	SS7	SS8	SS9	SS10	SS11	SS	PENALTY	TOTAL	CLS	OV	TIME	CLS	OV	TIME	CLS	OV	TIME	CLS	OV						
11	大倉 聡	豊田 耕司	JN-3	2:44.1	11:49.4	4:15.1	2:42.6	12:06.9	-	17:38.8	6:55.9	17:55.0	7:02.5	34.6	1:23:44.9		1:23:44.9	1	6	33:38.1	1	5	50:06.8	1	6									
22	長尾 綱也	尼子 祥一	JN-3M	2:45.1	12:02.9	4:15.7	2:45.6	12:10.8	-	17:53.3	6:52.0	18:14.2	7:00.3	33.4	1:24:33.3		1:24:33.3	2	8	34:00.1	2	7	50:33.2	3	9									
18	マクリン大地	大橋 正典	JN-3	2:44.1	12:15.2	4:15.3	2:43.3	12:13.6	-	17:55.8	6:54.4	18:02.8	7:04.0	34.5	1:24:43.0		1:24:43.0	3	9	34:11.5	3	8	50:31.5	2	7									
14	石川 昌平	坂井 智幸	JN-3	2:45.0	12:02.1	4:28.6	2:45.5	12:40.7	-	18:02.3	7:00.2	18:09.8	6:59.1	35.5	1:25:28.8		1:25:28.8	4	10	34:41.9	6	11	50:46.9	4	10									
17	長江 修平	石川 美代子	JN-3	2:46.2	12:06.1	4:22.3	2:47.4	12:20.9	-	18:00.5	6:59.7	18:42.2	7:09.0	35.3	1:25:49.6		1:25:49.6	5	11	34:22.9	4	9	51:26.7	5	11									
23	三枝 聖弥	木村 裕介	JN-3M	2:48.1	12:17.4	4:29.5	2:55.3	12:48.1	-	17:56.6	7:04.1	19:02.5	7:39.7	36.4	1:27:37.7		1:27:37.7	6	12	35:18.4	7	12	52:19.3	6	12									
20	奥井 優介	藤田 めぐみ	JN-3M	2:48.1	12:18.3	4:12.1	2:49.7	12:25.9	-	21:56.8	7:22.5	19:18.8	7:26.6	35.1	1:31:13.9	0:50	1:32:03.9	7	17	34:34.1	5	10	57:29.8	11	26									
25	及川 紗利亜	山本 磨美	JN-3M	3:11.6	13:39.0	5:07.1	3:12.5	13:58.2	-	19:28.0	7:35.5	19:29.2	8:17.8	40.1	1:34:39.0		1:34:39.0	8	18	39:08.4	10	26	55:30.6	10	22									
24	平川 真子	宮本 諒	JN-3M	2:53.8	13:02.8	10:40.6	3:18.9	14:38.6	-	19:04.0	7:46.5	19:05.5	7:33.3	37.9	1:38:41.9		1:38:41.9	9	22	44:34.7	11	34	54:07.2	8	19									
12	貝原 聖也	西崎 佳代子	JN-3	2:48.9	12:42.3	4:33.7	3:32.5	22:06.9	-	19:17.1	7:30.9	19:22.3	7:35.1	35.5	1:40:05.2		1:40:05.2	10	24	45:44.3	12	35	54:20.9	9	21									
21	米林 慶光	宮野 総一郎	JN-3M	2:44.0	12:10.1	4:12.1	2:42.6	22:06.9	-	18:15.3	7:10.5	18:57.5	7:26.8	35.5	1:56:21.3		1:56:21.3	11	29	1:03:55.7	14	38	52:25.6	7	13									
13	内藤 学武	大高 徹也	JN-3	2:38.5	11:45.9	4:12.1	2:42.6	22:06.9	-	18:18.4	7:11.6	18:51.8								1:03:26.0	13	37												
16	堀田 信	松浦 俊朗	JN-3	2:54.1	12:49.9	4:30.6	2:54.3	12:58.5	-											36:07.4	8	15												
19	宮本 雅彦	鈴木 和人	JN-3	3:12.6	13:14.6	4:42.1	3:02.2	14:17.0	-											38:28.5	9	24												
15	関根 正人	松川 萌子	JN-3	2:48.5	17:23.8																													

JN-3 : ADS多賀製作所K1カヤバGRヤリスDL (Dr. 貝原 聖也 CoDr. 西崎 佳代子)

コメント (貝原)
セットアップ変更後に想定以上にハンドリングがシビアになってしまいコース脇の岩にヒットさせ車両にダメージを入れてしまったことは、ひとえに自らの実力不足であったと反省しております。
サービスマンメンバーの懸命な修復もあって、出走したLEG2は”絶対に完走するんだ”という心持ちで修復作業を進めながらのラリーになりました。
ラリー北海道に向けて、やらねばならないことが沢山出来ましたので準備を進めていきたいと思います。

コメント (西崎)
デイリタイア後サービスマンメンバーが夜遅くまで車両を修復してくれたおかげで再出走が叶い、完走することができました。ここで得ることができた知見やマイルージを次戦ラリー北海道に活かし、少しでもいいリザルトを残せるよう準備していきたいと思います。引き続き応援のほどよろしくお願いいたします。

JN-3 : 10位/15台



森監督からの総評



デイリタイアという残念な結果となってしまいましたが、LEG1終了後にサービスマンメンバーが泥だらけになりながら懸命に車両復旧させたのは次に繋がる大きな財産になりました。次戦もグラベルラリーとなるため、今回明らかになった課題をしっかりと対策して臨みたいと思いますので、引き続き応援宜しくお願いいたします！